



入学を祝して

歯学部長 前田 健康

平成22年度新入生の皆さん、厳しい受験競争を勝ち抜いて、新潟大学歯学部への入学、おめでとうございます。昭和40（1965）年に設立された新潟大学歯学部は、今年度で創立45年を迎え、歯学科に加え、歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを取得可能な口腔生命福祉学科を有する国立大学法人歯学部です。これから4または6年間、我々教員とともに、日々進歩する歯科医学、口腔保健医療・福祉を学び、新潟大学歯学部の新しい歴史を築いていきましょう。

新潟大学歯学部では、包括的歯科医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成を教育目標としています。この教育目標達成のために、さまざまな工夫を凝らしたカリキュラムが編成されています。諸君達がこれから学ぶ新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。我々教育スタッフは、学部教育を生涯学習の最初の4または6年間と位置づけ、課題探求・問題解決能力の育成を重視し、その後続く学習を通して専門性を主体的に向上させる人材を養成することを基本認識としています。すなわち、諸君達がこれから新潟大学歯学部で学ぶ講義、実習の内容は社会に出てからのスタートラインに立つための内容でしかありません。歯科医療人、口腔保健・福祉医療人として長い人生を過ごしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには生涯学習という観点が必要で、生涯学習のためには、自ら学んでいくという態度が不可欠です。医療・福祉を目指すものにとっては、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していくという学習形態（問題発見・

解決型学習）が望まれます。本学部では早くからProblem-based learning（PBL）という学習方法を導入しています。このPBLでは教員は学習者の補助者にすぎず、学習の主体は学生であるという概念で、学習が進んでいきます。この教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうまでもありません。新潟大学歯学部の教育の主役は、教員ではなくて、君たち、学生諸君です。

新潟大学歯学部では早くから教育改善を進め、次世代を担う若手人材の育成に力を注いでいます。平成18年には文部科学省事業「特色ある大学教育改革支援プログラム」に採択され、全国歯科大学・歯学部のモデルケースとして高い評価を受けています。さらに、大学院教育レベルでは平成17年度「魅力ある大学院教育イニシアチブ」、平成20年度には「大学院教育改革支援プログラム」に採択され、学部レベルから大学院レベルまで、高い教育の質を担保し続けています。また、平成21年度には「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に歯学部単独のプログラムとして、全国唯一採択されています。研究面の評価の一つとして科学研究費補助金の採択があげられますが、この補助金の採択率も非常に高く、約6割以上の教員が科学研究費補助金に採択され、この採択率は学内ではトップに位置しています。平成21年度で16年度から始まった第一期中期計画・中期目標期間が終了し、暫定評価では歯学部は教育、研究の両面で、学内一の高い評価を受けています。

昨年12月末には、歯科治療をシミュレートする実習設備（ファントム実習設備）が4階保存・矯正実習室に更新・整備されるとともに、5階補綴・小児歯科実習室の機器も整備されました。ま

た、各種教材、教育機器の整備・充実に力を注いでおり、君たちの高い学習効果をあげるため、環境整備にも努めています。これら高度な教育環境を積極的に活用し、努力して下さい。教育環境の充実を我々教員の視線で行っていますが、やはりこのような環境整備も学生諸君の要望に応え、改善していくことが新潟大学歯学部をさらによりよい学部としていく基盤となります。学生諸君の立場からみたハード面、ソフト面の改善策を我々教員に積極的に提言して下さい。そして、さらなる教育改善をともに進めていきましょう。

昨今、歯科医療の前途を悲観するような報道がなされていますが、君たちが歯学部を卒業し、一人前の歯科医療従事者になる10年後は、歯科医療、口腔医療・福祉の重要性はますます高まることが予想されています。超高齢社会に突入した現在、

歯科医療従事者へのニーズは格段に高まります。短絡的にものをみるのではなく、10年、20年といったロングスパンで人生設計を行い、この柔軟な頭脳をもつこの時期に、知識・技能・態度をきちんと身につけ、新潟大学歯学部を旅立って欲しいものです。

教育の話ばかり致しましたが、20代前後のこの時期、勉強ばかりだけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、歯科医療人である前に、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてください。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に、平成22年度入学生全員でまた朱鷺メッセで喜びを分かち合いたいものです。





入学を祝して

医歯学総合病院総括副病院長（歯科担当） 興 地 隆 史

全国各地から難関を突破して来られた新潟大学歯学部歯学科・口腔生命福祉学科の新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。何よりも、楽しく充実した学生生活を過ごされますよう、心よりお祈りいたしております。

さて、新潟大学医歯学総合病院歯科は、昭和42年に前身の新潟大学歯学部附属病院として開院以来、日本海側唯一の国立大学歯学部附属病院として専門的な医療を提供するのみならず、多くの優れた医療者を輩出してきました。平成15年には医学部附属病院との統合により現在の姿となりましたが、その後も医科との相互の連携のもと全人的医療や臨床教育を実践する場として、地域の中で益々重要な役割を担っています。このような中で、皆さんにとっての医歯学総合病院の役割は何よりも、医療従事者としての基礎的な力を、患者様や現場の医療スタッフと接しながら「実学」として学んで頂くことであります。そして、皆さんの学習を支援するために、入学直後の早期臨床実習に始まり診療参加型の臨床実習で締めくくられる、全国屈指の実践的なカリキュラムが用意されていることは、私たちの誇りとするところとなっています。

それでは、「実学」とは何を意味するのでしょうか？ ウィキペディアで検索すると、「空理空論でない実践・実理の学のこと。虚学の対立語」あるいは「実際生活に役立つ学問のこと」などと説明されていますが、皆さんが将来携わる歯科医療や社会福祉の現場とどのように結びつけて考えればよいのでしょうか？ わかりやすい例として、「むし歯を詰め物で治す」という日常的な治療を実践

するためには、これから何を学ぶ必要があるのかを考えてみて下さい。まず、「むし歯の発生メカニズム」、「詰め物に使う材料の物理的・化学的な性質」、「治療の理論」などの知識が必要ですが、これらを「実際の治療に役立てる」という視点で理解することに実学の大きい意味があります。加えて、これらの知識を医療の現場で活かすためには、的確に歯を削って材料を詰める技術を身につける必要がありますし、患者様との適切なコミュニケーションなくしてはせっかくの知識や技術を医療として実現できないことも大変重要です。すでに皆さんは早期臨床実習Ⅰを受講した中でそれぞれの感想をお持ちのことと思いますが、その経験と結びつけながら、今後学ぶべき目標について考えて頂ければと思います。いずれにしても、将来の歯科医療の担い手である皆さんが、本院での充実した実習カリキュラムを通じて、幅広い知識と専門的な技術はもちろんのこと、医療のプロフェッショナルとして必要な態度や心構えについても十分に培って頂けることを願っています。

一方、学生生活は勉強だけの時間でないことも言うまでもありません。豊かな自然やおいしい食材は新潟の誇りとするところですので、折に触れてこれらを満喫するのも良いでしょう。部活、サークル、アルバイトなどなど、学生時代ならではの活動に力を注ぐことも、皆さんが幅広い人間的魅力を身につける上で有意義だと思います。そして何よりも、大学時代の友人は一生の友人となります。かけがえのない仲間を一人でも増やしなが、楽しく充実した毎日を過ごして下さい。